

ホスピタル・プレイ・スペシャリスト
第8回 国際シンポジウム&ワークショップ 実績報告

医療的ケアを必要とする子どもの「生」の発見
- 生きる意味の躍動と遊び -

1. 全体概要

(1) 開催日時

平成28年1月23日(土) 10時~16時55分

(2) 開催場所

静岡県立大学短期大学部 講堂及び教室

(3) 開催概要

本学における HPS 養成事業を振り返り、現在の到達点を確認するための場として国際シンポジウム&ワークショップを開催し、全国各地より 144 名の参加があった。国際シンポジウム基調講演では、「なぜ子どもに遊びは必要なのか。」という遊びの重要性を問い、子どもに遊びの手ほどきをするのは大人である事を再確認し、更に突き詰めて、「病院のなかで子どもに遊ぶ時があることが、どれほど大きな意味があることか。」を京都大学大学院教育学研究科教授の矢野先生にご講演いただいた。参加者は、現場におけるホスピタル・プレイについて、振り返るとともに今後の遊び支援のあり方について再考するきっかけを得た。また、HPS による参加型ワークショップを通して社会全体で子どもの遊ぶ力を引き出すとともに、子どもにやさしい医療を実現するための活動を体験的に学ぶ機会となった。

2. 当日プログラムの概要

(1) 10:00~10:05 開会挨拶

鬼頭 宏(静岡県立大学短期大学部学長)

本シンポジウムの開催に際し、講演者・参加者ならびにご支援とご協力をいただいている皆様に謝辞を述べるとともに本シンポジウムのプログラムの紹介、本学での HPS 養成教育事業の経過および成果と昨年末に「HPS 養成講座」「HPS 週末養成講座」が文部科学省の職業実践力育成プログラム(BP)に認定されたことについて話があり、開会挨拶とした。

(2) 10:05~10:20 主催者挨拶

松平千佳(静岡県立大学短期大学部 准教授・HPS 養成事業責任者)

本事業に対してご支援とご協力をいただいている各位に対する謝辞があった。またホスピタル・プレイと専門職の歩みについて、本学および NPO 法人ホスピタル・プレイ協会としての活動報告と今後のさらなる推進、発展について述べた。

(3) 10:20~11:50 基調講演

矢野智司 (京都大学大学院教育学研究科 臨床教育学講座 教授)

矢野先生から「大人は実用的な言葉や知識を教える前に、なぜ幼児に遊び方を教えたり、周囲では実際に見ることもない『キリン』や『ゾウ』といった言葉を教えたり、あるいは将来役に立つとは思えないおとぎ話を語ったりするのでしょうか」という問いが投げかけられ、子どもの遊びの必要性と重要性について等の講演が行われた。大人は、子どもに遊びの手ほどきをすることで現実世界とは違う世界の入口に子どもをつれていく役割を果たし、子どもは遊びを通して生きることを意味を深めていくことを学んだ。

(4) 11:50~12:00 ワークショップ案内

(5) 12:00~13:00 昼休み

(6) 13:00~16:35 HPS ワークショップ ホスピタル・プレイの実際 (5 ブース)

本学 HPS 養成講座は、現在まで11クールが実施されている。HPS によるホスピタル・プレイ活動を紹介しつつ、ワークショップを通じて、参加者は子どもにやさしい医療を実現するための活動を体験的に学んだ。

● ブース A (会場：講堂)

セラピューティックな遊びとはなにか (松平千佳)

子どもが生きるために必要な4つの力 (Connect, Courage, Count, Capable) のうち、その子どもにとってどの力が弱っているのかを評価し、弱っている部分に働きかける遊びが紹介された。実際に遊びを経験することで、セラピューティックな遊びの力を体感できた。

● ブース B (会場：102 講義室)

遊びを通したリラクゼーションとヒーリングの方法を学ぶ (HPS 関西ブロック)

袋を利用したセンサーグッズの制作や、圧縮袋の中に風船を入れたエアーマットを実際に体験しながら、子どもたちの遊びの世界が広がるような遊びを紹介し、病院内でも工夫次第で楽しく遊べるということ学んだ。

● ブース C (会場：103 講義室) 英国と日本のホスピタル・プレイの実践を学ぶ

(Emma Eardley…National Association of Health Play Staff 会長代行、バーミンガムこども病院 上級 HPS, HPS 名古屋ブロック)

バーミンガムこども病院で小児がん、幹細胞移植、血液腫瘍、リハビリテーション、頭蓋顔面外科手術等、多岐にわたってプレイ・スペシャリストとしての経験をもつ Emma Eardley 先生によるバーミンガムこども病院での実践を、ワークショップを交えて学んだ。

- ブースD（会場：104 講義室）プレイ・プレパレーションの方法を学ぶ（HPS 静岡ブロック）

前半は、歯科と小児病棟で行っているプレイ・プレパレーションの取り組みについて発表し、後半には静岡ブロックの HPS が所属している病院や施設のプレイ・プレパレーション（検査・処置・手術・入院）で使用しているプレパレーションブックやツール等の展示を行った。

- ブースE（会場：105 講義室）

ディストラクション・セラピーの方法を学ぶ（HPS 関東ブロック）

「医療を受ける子どもの気持ちを知り、子どものためにできることを考えよう！」をテーマに、ディストラクション・ツールの制作や、それらを使ったディストラクション・セラピーの体験を通して、治療・処置を受ける子どもの恐怖や不安に気づき、子どものために何ができるかを学んだ。

（7）16:35～16:45 休憩・移動

（8）16:45～16:55 まとめ・閉会挨拶

有泉祐吾（静岡県立大学短期大学部部長）

有泉短大部部長より本学における今後の養成教育事業について述べられ、閉会の挨拶とした。

3. 当日の様子

開会挨拶



主催者挨拶



基調講演



HPS ワークショップ



主催：静岡県立大学短期大学部

NPO 法人 ホスピタル・プレイ協会 すべての子どもの遊びと支援を考える会

後援：静岡県 静岡市